

令和2年度

第1回総合教育会議
会議録

とき 令和2年10月27日

品川区

令和2年度第1回品川区総合教育会議

日時 令和2年10月27日（火） 開会：午後4時

場所 品川区役所 議会棟6階 第一委員会室

出席者	区長	濱野 健
	教育委員会教育長	中島 豊
	同 職務代理者	菅谷 正美
	同 委員	冨尾 則子
	同 委員	海沼 マリ子
	同 委員	塚田 成四郎

出席理事者	企画部長	堀越 明
	企画調整課長	佐藤 憲宜
	総務部長	榎本 圭介
	総務課長	立川 正
	教育委員会事務局教育次長	齋藤 信彦
	同 庶務課長	有馬 勝
	同 学務課長	篠田 英夫
	同 指導課長	工藤 和志
	同 教育総合支援センター長	矢部 洋一
	同 品川図書館長	横山 莉美子

傍聴人数 4名（内途中入場1名）

次第

1. 開 会
2. あいさつ 品川区長、教育長
3. 議 題
 - (1) 協議
品川区教育大綱の改訂について
 - (2) 報告
区立学校における新型コロナウイルス感染症への対応について
 - (3) その他
4. 閉 会

○総務部長

それでは、定刻となりましたので、令和2年度第1回品川区総合教育会議を始めさせていただきます。

本日は、この会議を傍聴の方が3名おられますので、お知らせいたします。

なお、本日の会議におきましては、記録用にカメラ撮影をさせていただきますが、傍聴の方の顔は写らないように配慮いたしますので、ご了承ください。

まず、開会に当たりまして、濱野区長より挨拶をいただきます。濱野区長、よろしくお祈りいたします。

○濱野区長

皆様、こんにちは。お忙しいところ、今年度第1回目となります総合教育会議にご参集を賜りまして、ありがとうございます。

今年は年明けから、新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るっております。昔、スペイン風邪というのが流行いたしましたけれども、それと似たような状況になっているというふうに思います。日本でも緊急事態宣言が発令されました。

品川区におきましても、対策本部を設置いたしまして、医師会などと協力しながら感染拡大防止対策、あるいは感染者の皆様への対応ということで、いろいろと力を尽くしているところでございます。

区立学校におきましても、感染対策に対して日々、ご尽力をいただくとともに、3月から続きました休校の影響を受けまして、とにかく休校ですから、授業の時間が少なくなったということで、これを確保するというところで一生懸命、工夫をいただいているところでございます。

区では基本構想というのがあって、その基本構想を具体的に計画に落とし込んだ基本計画というものにより、実効性のある取り組みを推進してまいりました。以前策定しました基本計画が終了しましたので、今年度、新たな長期基本計画を策定したところであります。

今、申し上げました長期基本計画を踏まえましての教育大綱の改訂ということを行うわけでありまして、これにつきましてご意見を賜れば幸いということで、今日の会議を催しているものでございます。

冒頭で申し上げましたけれども、新型コロナウイルスに対する区立学校の対応についても議題となっております。情報を共有し、連携を深めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

この会議が実りあるものとなることをご祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお祈りいたします。

○総務部長

ありがとうございました。それでは次に、教育委員会よりご挨拶をいただきます。教育委員会を代表いたしまして、中島教育長、よろしくお祈りいたします。

○中島教育長

区長におかれましては、ご多忙の中にも関わらず、このような形で第1回の品川区総合教育会議を開催していただきまして、ありがとうございます。教育委員が区長と直接、お話をできる機会はなかなかございませんので、5人の教育委員、今日のこのときを手ぐすね引いて待っておりました。先ほど区長の話がありましたように、実りある会にしていければなというふうに思っております。

コロナウイルス感染予防ということで、もう既にご存じのように学校では、その中で新たな教育活動の実施に向けて、様々な工夫、努力を重ねているところでもあります。これまでのことは今までどおりできない部分、また、何とか工夫すればやっていけそうな部分、特に休校から分散登校、そして一斉登校となった1学期におきましては、授業時数が大幅に減らされ、夏休みを短くせざるを得ない状況がございました。行事も見直され、その中で、先ほど区長がお話になられた授業時数に関しましては、各学校それぞれ、かなり確保ができるようになってきている状況がございます。それでも、この冬、またコロナの第2波が心配されますし、今はおとなしくなっているインフルエンザも、もしかするとという状況がございます。私どもも、最善の施策で学校を支援していければと考えているところでございます。

教育は百年の計と申しますが、この先10年は、新しい長計に基づいて、教育行政もそれをベースにシフトしていかななくてはならないというふうに考えています。そのためにも、本日の話合いがキックオフとなっていただけるとうれしく思います。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

○総務部長

ありがとうございました。それでは、お手元の議事次第に基づきまして、議事に入りたいと思います。

議題1の(1)協議というところからでございます。品川区教育大綱の改訂について、企画調整課長より説明をお願いします。

○企画調整課長

企画調整課長の佐藤と申します。よろしく願いいたします。

では、私からは、「品川区教育大綱の改訂」についてご説明をさせていただきます。資料1の「品川区教育大綱改訂(案)」をお手元にご用意願います。

まず、策定のポイントをご説明いたしますので、1ページの「1-1の改訂の趣旨」をご覧ください。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が平成27年4月に改正されまして、地方公共団体の長に対し、教育等の振興に関する施策の大綱について、策定が義務づけられました。それを受けまして、「品川区総合教育会議」を設置し、区の長期基本計画を踏まえた議論を行い、平成28年4月に「品川区教育大綱」を策定しております。

このたび、新しい「長期基本計画」を策定いたしましたので、その内容を大綱に反映しておりますが、「教育理念」や「方針」など、大きなところは変更しておりません。

次に1-2の大綱の位置づけをご覧ください。計画期間は、「長期基本計画」と合わせまして、令和2年度から11年度までの10年間とし、必要に応じて見直しを行ってまいります。

次に2ページをご覧ください。黄色で網かけをしております「品川区教育大綱の位置づけ」でございますが、引き続き、区の基本構想や長期基本計画等を反映するものとし、その位置づけの変更はございません。

次に3ページ、「2番、品川区の現況と課題」をご覧ください。ここからは、新しい長期基本計画等を反映した主な改訂箇所のご説明となります。

まず、上から12行目でございます「ネウボラネットワークによる切れ目のない子育て支援」、またそこから5行下、「学校教育法一部改正による義務教育学校としての位置づけ」、さらに2行下にあります「品川区コミュニティ・スクールの全校展開」など、この間の区の取組を反映しております。

次に、4ページの「2-2の区の教育を取り巻く状況の変化」といたしまして、1段落目に「人口推計」、2段落目以降に「ICT等の関連やSDGsの取組」、また「新型コロナウイルス感染症の対応など」を記載しております。

次に、5ページの「3の基本理念と方針」でございます。基本理念の「共に育み つなぐ 教育都市しながわ」は普遍的な理念でございますので、引き続き継承をいたします。

6ページからは分野ごとの方針でございます。まず1の就学前教育の充実については、上から4つ目の項目におきまして、これまでは「待機児童対策を推進」という表現を使っておりましたが、区では待機児童が解消されておりますので、「園児の受け入れ体制の確保」としております。

次に7ページの「2の学校教育の充実」でございますが、下から4つ目の項目で、国のGIGAスクール構想なども踏まえまして、「すべての児童・生徒への端末配備」と追加しております。また、下から3つ目の項目には、働き方改革を踏まえまして、「教員の働き方改革」を追記しているものでございます。

次に8ページ、「3の青少年教育の充実」をご覧ください。青少年の自立等の観点から、下から3つ目の項目になります。「居場所づくりや相談できる拠点整備」など、追記をしております。

恐れ入りますが、次に9ページをご覧ください。「4番の生涯学習・スポーツの充実」でございます。1つ目の項目について、長期基本計画に定めております「超長寿社会」や「多様性の尊重」の考え方を反映しまして、「年齢や障害等の有無に関わらず学びとスポーツが行える仕組みづくり」を追記しております。

次に10ページ、「5の文化・芸術の振興」をご覧ください。一番下の3つ目の項目に対しまして、日本考古学発祥の地として、区が誇る「大森貝塚」に関する表現を追記しております。

最後のページ、11ページをご覧ください。「大綱の更なる実現に向けて」と

いたしまして、法令の趣旨に基づきまして、区長部局と教育委員会が連携し、引き続き施策を推進していくことを変わらず記載しているところでございます。

最後に今後の予定をご報告いたします。本日の審議結果を大綱に反映いたしまして、その後、区議会にご報告を行った上で、来年1月を目途に製本印刷し、各所に配付したいと考えております。あわせまして、区のホームページでも公開いたしたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。

○総務部長

資料1、品川区教育大綱の改訂について説明がございました。各委員の方々からご意見等をお伺いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

○菅谷教育長職務代理者

大綱を決めるときに、私ども教育委員会のメンバーの話が出ていること、すごくうれしいことだと思います。

教育大綱ということは、全世代にわたった教育の中身だと思うんですね。そのときに、私も高齢者になってきましたので、今まで高齢者に対する教育ということ、実感しませんでした。ただ、最近、見ていますと、高齢の方がお病気だけではなくて、いわゆるモラルの低下や、様々な社会問題が起きていますね。昔は考えられないほど高齢者の方が多くなった。車の運転もそうでしょうし、社会の中での生き方もそうです。もう一度、学びの基本に戻って、マナー等を学ぶ機会があってもいいのかなど。品川区はシルバー大学などいろいろなことをやっているのは、よく分かります。でも、趣味とか、学習内容が知的なものから技能にかわってもいいのかなどと思います。

特に今、コンピュータを含めたデジタルの社会ですね。この社会の中で、新しいものに対応する技術や技能を持たない方が、やっぱり社会の弱者になってしまうんですね。そのことを考えると、もう少し、高齢者のためのリカレントとは申しませんが、そういうところにもっと力を入れてほしいな。自分が高齢者になるから、余計そのように感じてしまうのでしょうか。

各論の中でありますけれども、「学びと健康のことをします」と書いてありますから、具体的な策を、この中に入らないにしても、やっぱり掲げていくことは大事なのではないかと思います。特に高齢者がどんどん増えますね。まだまだ増える。そういう状況を考えたとき、人生の最後のところですから、健全で健康な生活を送っていただきたい。そのためには必須な能力、高齢者でも学ぶという社会にしてほしいなと思います。

○濱野区長

ありがとうございます。ほかに。海沼委員。

○海沼委員

今、菅谷先生のお話の中で、生涯学習ということで、私も同じ意見なんです。私も高齢者になっていますので。大分、前ですけれども、シルバー大学を創設したときに、私はそのときに青少年委員をさせていただいておりましたので、お手伝いをした時期があったんですね。書道教室とか折り紙教室などの受付等をお手伝いさせていただいて、やっぱりこういう学校があるといいなとずっと思っていたんです。我々の年代になったら、今度は入れるのかなと思って。まだ、参加させていただいてはいないんですけれども、これからはぜひ、うるおい塾とかそういうところでも、もっともっと今のニーズに合うようなものを取り入れていただきまして、シルバー大学を充実させていただいて、これからは学び続ける品川ということで、やっていただければと思います。よろしく願いいたします。

○濱野区長

ありがとうございます。ほかに。お願いします。

○塚田委員

10ページの「5、文化・芸術の振興」というところで、3つ目の丸に「広く区民に品川区の歴史を知ってもらい」とあるんですが、何かビビッドに頭に浮かぶものが、あんまり思い浮かばない。ここには大森貝塚のことが書いてありますが、大森貝塚に行きますと、何か碑が建っているだけで、いまいちぱつとしないなと。で、大森というと、大田区のものかなと思って。あれ、碑が2つあるんですね、大田区の碑と品川区の碑で。品川区の大森貝塚というのをもうちょっとアピールできないかなということは、ちょっと感じます。

薪能などもやっておりますけれども、品川区はこれというものが何かほしいなという感じをしております。

○濱野区長

ありがとうございます。私も、電車で大森貝塚の前を通りますと、本当はもっと大きな看板で、大森貝塚って表示をしてもいいかなと。だけど、そうなると、品がなくなってしまうしね。その辺、何かいい方法ないかななんて、前を電車で通るたびに思うんです。一つの大きな品川の宝だと思うんですね。あれを契機にモースがいろいろと活躍したわけだし、もっと世間に知らしめることはできないかなと思いますね。

あと、鉄道の父という碑が東海寺にありまして、やっぱりあれなんかも、もっとPRしてもらおうことで、あ、品川、そうなのみたいなことになるのではないかななんて思います。先生方と一緒に、品川の歴史とかそういうものをもっと宣伝、アピールしていきたいなというふうに思っていますので、その節はご協力のほど、よろしく願いいたします。

ほかにありましたら、お願いいたします。

○富尾委員

6 ページのところですが、今までシルバー大学とか、高齢者の方、あるいは全般にわたるような文化のことのお話があったと思うんですが、ちょっと細かいことになりますけれども、「就学前教育の充実」について、ちょっと意見をさせていただきたいと思います。

一番最後のほうに「保護者支援のさらなる充実を図ります」というふうにありますけれども、具体的な支援の在り方ということをもうちょっと示していただきたいなというふうに思います。また、小児科医としましても、2019年12月成育基本法が施行され、その中で、「地方公共団体は愛着形成の知識を持ち、成育過程にある者や妊産婦の心身の健康保持、増進に関して必要な施策を講じなければならない」というようなことが書かれていまして、これまでの品川区の、「妊娠期から切れ目のない支援をしていく」という、これまでの方針を、さらに支持するような法律も制定されているということでもあります。

コロナ禍においては、虐待とかネグレクトということが結構、水面下に潜り込んでしまっているような状況もありますけれども、引き続き児童相談所などの連携強化も必要だと思いますし、今後、関係機関等には、保護者の支援ということで、児童相談所との連携等も、さらに密にしていっていただきたいなというふうに思います。

○濱野区長

児童相談所、今度、区の仕事になってきますので、それはもっとも力を入れていかなくちゃいけないというふうになっていくと思います。

子育てについて、もっと世の中全体で、お母さんに任せておけばいいやということではなくて、お父さんも、それから家族全体が子どものことをしっかりと注目をして、成長の様子をしっかりと見詰めるということが、大事なのではないかなというふうに思います。

ちょっと私事ですが、孫が来年、学校に通うようになって、めきめきと力つけていくんですね。そういう時期なんだろうと思います。そういう、人間が成長していく過程をしっかりと見られるというのは、幸せだなというふうに思いますし、そのことは、「私が」ではなくて、みんながそういうことを、子どもはこうやって成長していくんだなということを見届けるというか、確認をするということ、大事なのではないかなと思いますので、区としても、例えば保育園あるいは幼稚園において、親御さんに対して、もちろん我が子もさることながら、我が子の友達の成長について、しっかりと見詰めることが必要なのではないでしょうかというようなことも、訴えていく必要はあるのではないかなと思う次第です。

教育長さん、よろしく願いいたします。

○中島教育長

今日は委員の皆様方からは、学校教育に関わるテーマというよりは、本当に

総合教育会議にふさわしい、学校教育を取り巻く、また、その前後の様々な話題を提供していただいたのかなというふうに思いました。

この大綱の5ページのところには、理念としての概念図が載っていますが、そこには「生涯学習」という言葉が1か所、明記されておりますので、高齢者の方の学びということは課題になっているのかなというふうに思いました。高齢者の方の学びを考えるには、健康ということが切っても切れませんので、そういった視点からも、サポートしている品川区の様々な施策が、ここに入り込むといいのかなというように思っていました。

また大森貝塚は今、そういった何かしらもっとアピールできるようにということで、研究の方と連携するような形で、検討委員会を進めております。その中で、こういった文化は観光とも多分、密接に絡んでいるのではないかなと思いますので、連携を図って、今後、目玉となれるような存在にできればなというふうに思っております。

最後の児童相談所につきましても、役所は縦割りだとよく言われますが、それを横断する形で関わっていかないと、本当にその子どもに添った支援はできないだろうと思いますので、それも今後の課題かなと、組織的にも考えていかななくてはならない部分かなというふうに聴かせていただきました。皆様のご意見をぜひまた明日からの教育行政に生かしていきたいなと思います。

○濱野区長

よろしく申し上げます。

○塚田委員

今、児童相談所の話が出たんですけれども、以前ありましたよね、品川児童相談所って、映像で出てくるんですよ。すごくかわいい女の子が亡くなってしまった事件。目黒区の住民なんですね。何で品川児童相談所なのか。あれは東京都の施設ですということなんですよ。だから、東京都の施設で、東京都があんまりうまくやっていないのかなと思うんですけれども、今度、品川区の施設になりますよね。そういうご批判がもろに品川区に来ることになりますので、ひとつそれは力を入れて、やっていただきたいというふうに思います。

○中島教育長

今の児童相談所は管轄区がありまして、品川児相のほうで大田区と品川区と目黒区を管轄していただいているという状況がありますが、今度、単独でできるようになりますと、品川区としても、子どもたちへの直接的なものになりますので、教育との関わりも結構、太くなっていくと思っております。

○濱野区長

ほかにいかがでしょうか。

児童相談所のこともさることながら、子どもは日々変わっていきますよね。

4～5歳ぐらいだと、どんどん成長していく。その成長の変化をしっかりと親が見ていく必要があるのではないかなと思いますね。

○中島教育長

区長、4～5歳の1年間というのは、私たちの10年間です。そこに大きな成長がつまっていますね。

○濱野区長

確かに言われてみれば、そうですね。

ほかに何かご意見、あるいは感想でも結構ですので、ありましたら、お願いいたします。よろしいですか。

○総務部長

それでは、議題の1は終了いたしましたので、続いて議題の2、区立学校における新型コロナウイルス感染症への対応について、教育委員会事務局の庶務課長より説明をお願いいたします。

○庶務課長

庶務課長の有馬でございます。それでは、資料2をご覧ください。「区立学校における新型コロナウイルス感染症への対応について」、ご説明いたします。

まず資料の左の青い部分、「臨時休業中の対応」という欄をご覧ください。国内での罹患者の発生をきっかけに、国のほうから、感染防止対策のため、3月の初めから全国規模で学校を休業するよう要請がございました。その後、4月7日に緊急事態宣言が出され、最終的には5月25日まで続いたということでございます。

このような中、区では国の要請を受けまして3月3日から、春休み期間を含め5月末まで、学校を休業といたしました。この間、卒業式、入学式については、密を避け、短時間で実施するなど、工夫して行いました。また、子どもの居場所づくりとして、校庭開放や学校図書館の開放等にも取り組んでまいりました。

2に示しているとおり、6月には分散登校を開始し、3に示しているとおり、6月29日より一斉登校を再開いたしました。

また、授業時数を確保するため、夏休み期間を短縮したということがございました。

2学期に入りまして、例えば運動会の開催については、時間や曜日を分け、学年別に行うなど、学校行事についても、いろいろ工夫することで、少しずつ行っているところでございます。

次に、真ん中の緑色の欄、「4、オンラインを活用した学習支援等」という欄をご覧ください。学校休業中には、紙によるプリントのほか、「トータル学習システム」や「eライブラリによる家庭学習支援」をはじめ、「学校のホームペー

ジの活用」、それから「学習動画である品川わくわくスクール」というものを新たに作りまして、これの配信等を行いました。当初は、保護者にもいろいろご負担をおかけしましたが、家庭学習時間割を示すなど、自学自習のサポートを行ってまいりました。

一斉登校後は、「Zoomの活用」や「英会話のオンラインレッスン」なども再開しております。さらには、国のGIGAスクール構想に基づき、本年度中に児童・生徒全員に1人1台の端末を配備するよう取り組んでいるところです。今後は、家庭にしながら双方向の授業も可能になってくるということでございます。

次に右側のオレンジ色の部分をご覧ください。「5の区立学校版感染症予防ガイドライン」ですが、この間、国や都からの感染予防に係る通知に基づきまして、区立学校側の感染予防ガイドラインを策定し、学校に周知をし、統一的な対応をしてまいりました。

その中の「感染予防の取り組み」の一例を、項目の6で示しております。消毒は当然のこと、「サーモグラフィによる登校時の検温」、「フェイスシールドの活用」。あるいは、「空調を使っているときであっても換気を行う」など、対策を行ってまいりました。また、感染リスクが高いとされる給食時は、対面を避けまして、皆、生徒たちは同じ方向を向いて給食をするということに取り組んでいます。

最後に、感染状況でございますが、児童・生徒における陽性者は、現在のところ6校で11名。また、PCR検査を含め、学級閉鎖を含めると、3校で学級閉鎖があったということでございます。なお、教員には感染者はございません。

私からの説明は以上です。

○総務部長

資料2の区立学校における新型コロナウイルス感染症への対応についての説明がありました。これについて、ご意見等をお伺いできればと思いますので、よろしく申し上げます。

○菅谷教育長職務代理者

今回のコロナウイルスについて、私は教育委員会の中で、こういうような対応をしておりますが、もうちょっと考え方を考えてみたらどうかなと思う点が1点ございます。それは何かというと、今から150年前、明治5年から始まった学校制度というのは、国で子どもの学校を建てる。国が面倒見ると、そういう形でスタートしたわけですね。その内容ががらっと変わったのは、今から75年前、ちょうど74年たったときに戦争が終わって、日本の教育の中身を変えましょうということで、大きな改革があった時でした。

今回、それからまた70何年たったところで、学校の役割というんですか、学校の中での教育の役割、特に学校教育の中で大事な学習の場というのが、学

校、教室で持っていたんですね。それが、今回のコロナのように、学校でできない。もっと広げた、広い意味の学級をつくり出ささいよと、私はそういうふうに今回のコロナのこを受け止めたいと思うんです。対応はいろいろあります。でも、本質的なのは、ただ教室の中でチョークと紙と使って、先生が教えるというスタイルでは、これからはいかないよと、そのことを暗示しているように私は感じるんですね。

ですから、みんな、子どもにコンピュータを持たせることもそうだし、Zoomを使って家で勉強することもそうです。新しい展開に対応できる教育でなくてはならないと思うんですね。何かやっぱり大きなきっかけがないと、進まないものです。特にこのコロナウイルスの対応が、コロナウイルスだけではなくて、社会全体が変わろうとしていますので、教育大綱の中にも、今の現状というのを書いているんですね。非常によく書いてありますので、学校教育の中のコロナ対策は、対策だけに終わらないで、学校教育の中身を変えていくと。社会的な意味、学校の社会化ですかね。社会の中に広がっていく学校と、非常に大きな意味を持っているのではないかなと、そのように感じております。

お金がかかります、はっきり申し上げて。お金がかかる。でも、これをやってあげないことには今、これからの子どもたちが、成長、社会の中で働くということ、非常に大事なことはないかなというふうに思っております。何とか今のところを乗り越えて、新しい教育のスタイルをつくり上げたいなと、そのように思っています。

○濱野区長

どうもありがとうございました。ほかにいかがですか。

○富尾委員

区独自の「区立学校版感染症予防ガイドライン」というものを作成されて、可能な範囲で感染予防対策を継続して、学校生活が何とか守られている状態ですが、長期化するに従いまして、子どもよりも、むしろ大人のほうがそうかもしれませんけれども、気の緩みが起こり得ることだと思います。今後は、さっきから一般に言われていますが、インフルエンザとの同時流行の可能性もありますし、引き続き気を引き締めて、学校生活が守られてほしいなというふうに思います。

また、インフルエンザ以外でも、台風や地震といったような大規模災害が起こり得ることもありますし、学校は避難所の役割も果たす場所でもありますので、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応下におきましても、災害対応や避難所運営についても、品川区として各所と連携しながら、訓練をして準備していただきたいなというふうに思っています。

○濱野区長

どうもありがとうございました。ほかにご意見等はありませんでしょうか。お願

いたします。

○海沼委員

1学期は6月より分散登校が始まりましたけれども、それまで休校期間は、先生方は子どもたちへの、家庭でいかに勉強させるかという形で、子どもたちも友達と遊べないので、また交流もできず、それぞれ大変だったと思います。親もテレワーク等により、昼食は今まで学校では給食でしたけれども、家庭ではお昼もつくらなきゃいけないと、親も大変だったと思うんですよね。ですから、親もストレスがあったのではないかなと思います。また、学校が再開した際には、先生方、また消毒の負担も増えたのではないかなと思います。2学期に入りまして、子どもたちは少しずつ、友達とのコミュニケーションがとれてきたように思います。社会科見学とか、あと、任意の運動会、そういう形で、密も避けるような工夫をしながら行うことが、少しずつできていることは望ましいことだと思います。

これからインフルエンザの、先ほどの冨尾先生のお話にもありましたけれども、流行があると思いますけれども、引き続き手洗い、うがい、毎日、消毒を励行しながら、新しい生活様式を学校でも取り入れて、感染防止に努め、学校が休校にならないようにと思っております。

○濱野区長

どうもありがとうございます。それでは、塚田委員から。

○塚田委員

庶務課長からの報告によると、児童・生徒に意外と感染者が少ないんですね。ただ、このA判の資料の一番最後のところに給食風景が、何かこれ危ないのではないかなというふうに見えたんですね。対面で食事はしてないんですねけれども、今までどおり配膳するというやり方が大丈夫なのかなと。お弁当のほうが安心なんじゃないのと思ったりもしたんですが、今、庶務課長の報告だと、意外に感染者が少ない。ただ、これから冬に向かって、インフルエンザの問題もありますので、同時流行みたいなことになると、ちょっと怖いなど。

私、実は、8月になると暑くなって、コロナも一旦おさまるのではないかなと思ってたんですね。ところが、全然おさまらないです。それで、これは冬になだれ込んで、大変なことにならなきゃいいなと危惧はしています。私も実に久しぶりに今月、インフルエンザのワクチンを接種しました。

そんなことがあって、このやり方でも何とか感染者が抑えられているということで、安心はしましたが、ちょっとやっぱり冬に向かって心配だなということ。

それと私、事務所の窓から下をのぞきますと、小学生の下校風景がよく見えるんですよ。くっついて歩いているんですね。ディスタンスなんか、ないです。もう本当に重なるようにして歩いている。下校ということで、先生の日も、も

う届かないということで、やっているんでしょうけれども、これから冬になって、登下校時もちょっと離れるようにご指導があったらいいのかなというふうには思っています。

○濱野区長

学校帰りって、うれしいんですよね。授業もなくなって、これから自由だという感じで。その思いも多少、我々、理解しなくちゃいけないと。でも、やっぱり健康が第一ですから、そういう意味では、健康を損なうような行動というか、あれは指導する必要があるのかなというふうに思います。

そのほかご意見、ご要望ありましたら。お願いします。

○中島教育長

今の委員の皆さんの発言はほとんど、区長にというよりは教育長に来た発言だというふうに思います。区の様々なところで、コロナの感染予防に努めていただいている状況があって、経済的にも非常に厳しいという中ではあるのですが、やはりこの間、教員も大変でした。消毒作業を含めまして、教員だけではないんですが、多くのスタッフが関わって、換気と消毒ということを学校では繰り返しやっているわけです。保護者の方も大変だったのではないかなと思います。改めて、学校の役割とは何かということを考える事態になったかなというふうにも思います。

そんな中で、一番大変だったのは誰かということ、子どもたちだと思いました。うがい、手洗い、マスクの着用、これをかなり徹底して、先ほど、密になっているという話もございましたけれども、コロナにおいては、かなりこういった指導を行い、先ほど、給食のご心配、塚田委員がしていただきましたけれども、全校で毎日のように2万人の子どもたちが給食をとっている中でも、先ほどの報告があっただけの感染しか出ていない。

ちまたでは、国が言うように、やはり飲食時の感染というのが一番心配されるという状況がございますよね。学校では、マスクを着用して、友達としゃべらないで、同じ方向を見て食べようということで、1年生から9年生まで徹底して行っていることの一つの成果かなというふうに思います。

ただ、ICTが進んで、様々な形で、できないことができるようになってきている状況ではあるんですが、ああいった形のオンラインとか、デジタルの内容も大切なんですけど、菅谷職務代理がおっしゃるように、これからの時代には絶対必要なんですけども、学校でなくては体験できない、学べない、理科の実験とか友達同士の協議とか、なかなか生でやっていかななくてはならない部分というものとデジタルとの共存が、これからは必要になっていくんだらう。それが新しい学校づくりになるのかなというふうに考えます。

授業の在り方も当然、変わっていかなくてはならないでしょうし、そういった中で、どこまでを家庭でやれるのか。どこまでを学校で担うのかということも、具体的にしていかななくてはならないかなというふうに思います。1人1

台のタブレットを子どもたちが手にして、より学びの効率性が上がる、そこを求めていかなくては行かないのかなど。ただし、コロナの感染予防がございまずので、それを担いながらも、学校としてのやれること、本来の役割を進めていきたいと、私のほうでは考えているところであります。

これからの時代に向けて、一番頑張らなくてはならない家庭、学校、そして子どもたちに、教育委員会としても、ぜひエールを送って、支援をしていければと改めて思いました。

委員の皆様、今後ともご支援よろしくお願ひしたいと思ひます。何か教育委員会の延長になつてしまつて申し訳ございませぬ。

○総務部長

それでは、全体を通じて何かございませぬか。よろしいでしょうか。

それでは、これで第1回総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

— 了 —